

士気旺盛にして力強く

消防団定期観閲式

つがる市消防団定期観閲式が6月18日、イオンモールつがる柏で開催され、市内各地区から集結した消防団員が、地域住民の安心・安全の確保に向け士気を高めました。



息の合った分列行進



福島市長らによる視閲点検

盛り上がった玉落競技大会



◆総合成績（視閲点検、機械器具点検、分列行進）

優勝 柏大隊
第2位 森田大隊
第3位 稲垣大隊

◆玉落競技大会（優勝）

・50馬力以下
木造第17分団（千代田・遠山） 31秒89
・51馬力～85馬力
木造第2分団第1部（清水・下木造） 42秒21
・86馬力以上
車力第4分団（下牛潟） 24秒02



今回初披露したラッパ隊の演奏

現在、つがる市消防団は56分団、消防ポンプ車等80台が配備され、1141人の団員が消防栓や消防ポンプの管理、消火訓練などを行いつつ、万一の災害に備えています。

観閲式では、観閲者である福島市長らによる視閲点検、機械器具点検、分列行進などが行われ、団員らは日頃の訓練の成果を発揮。審査の結果、柏大隊が6年連続の総合優勝を飾りました。また、森田中学校吹奏楽部が特別演奏を披露。幼年消防クラブ（かしわこども園、かしわあつぷるこども園）は、消防団員に負けじと元気な行進や機械器具点検・消防操法などを実演し、会場を盛り上げました。

引き続き開催された式典では、表彰伝達・授与が行われ、251人の団員と1つの分団が各表彰を授与されました。福島市長は「近年、異常気象に伴う集中豪雨や大震災などが全国で発生し、予測不能の災害が発生する可能性が高まっています。住民を守るという強い使命感を持ち、任務を遂行してくださるようお願いいたします」と消防団員を激励しました。

今回から、昨年11月に結成されたラッパ隊が観閲式に参加。隊員9人（全10人）がラッパの音を響かせ、式典に花を添えました。

恒例の玉落競技大会では、29の分団と航空自衛隊車力分屯基地が出場。観客の声援が飛ぶ中、吊るされた玉を目掛けて高々と水柱が上ががり、白熱した競技が繰り広げられました。



よさこいを披露するかしわあつぷるこども園の園児



かしわこども園の園児が放水を実演



高山稲荷神社の千本鳥居



知識豊富なボランティアガイドが案内

つがる市の豊かな自然を満喫 定期観光バスツアー運行



7月のベンセ湿原では、ノハナシヨウブが見ごろを迎え、季節の移り変わりを楽しませてくれることでしょう。

今年、初めて来ましたが、一面に広がるニッコウキスゲは素晴らしい一言。暖かい地元の人たちとも出会えました」と満足気に話していました。

市内の名所を巡る定期観光バスツアーが5月30日から6月16日まで運行され、県内外から多くの観光客が訪れました。初日、市役所前で行われた出発式には、ツアー客や関係者ら約40人が参加。市観光物産協会の川嶋大史会長らが歓迎のあいさつをした後、関係者一同に見送られながらバスが出発しました。参加者一行は、この日のボランティアガイド・新岡絹子さんの案内を聞きながらベンセ湿原や埋没林などを散策。初夏の爽やかな空気の中、豊かに彩られた景色を楽しんでいました。



ベンセ湿原を散策する観光客（6月6日）



ベンセ湿原へようこそ

各団体がボランティアで観光客をお迎え

6月11日、館岡子ども会によるベンセ湿原ゴミ拾いが行われ、約20人のメンバーが付近のごみ拾いに精を出しました。これは、観光客に気持ち良く散策してもらおうと同子ども会が毎年行っているもので、今年が4回目。参加者は、駐車場からメロンロードまでの道路など約1kmにわたり、道路沿いや茂みの中に捨てられた空き缶などを丁寧に拾い集めていました。参加した野呂優理さん（木造中3年）は「今年はごみが少なかった。これからもきれいなベンセ湿原を守っていきたい」と話していました。

また、市連合婦人会（小笠原敬子会長）は6月3日から11日までの間、同湿原の駐車場に休憩所を設置。明るい笑顔とお茶を振る舞い、訪れた観光客の憩いの場となっていました。



ごみを拾う館岡子ども会のメンバー



市連合婦人会の皆さんと散歩に来た菰槌保育園の園児